

令和7年5月吉日

中国地区各県小学校長会
会 員 様

第72回 中国地区小学校長会教育研究大会岡山大会
令和7年度 岡山県小学校長教育研究大会倉敷大会
大会会長 小山典子
(岡山県小学校長会長)

第72回 中国地区小学校長会教育研究大会岡山大会
令和7年度 岡山県小学校長教育研究大会倉敷大会

～ ご 案 内 ～

薫風の候 会員の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、標記の大会を下記のとおり開催することといたしました。

新たな時代の要請に応える教育の推進のため、全国連合小学校長会の大会主題を踏まえ、副主題を「夢や知を育み 持続可能な社会の創造者となる 子どもの育成に向けた学校経営の推進」とし、これからの時代に求められる小学校教育の在り方を究明することにより、本大会の目的を達成したいと思います。多くの会員の皆様のご参加をお願いします。

記

- 1 主 催 中国地区小学校長会 岡山県小学校長会
- 2 後 援 岡山県 倉敷市 岡山県教育委員会 倉敷市教育委員会
(予定を含む) 公益財団法人日本教育公務員弘済会岡山支部 全国連合小学校長会
- 3 会 期 令和7年11月21日(金)
- 4 会 場 【全体会】倉敷市民会館 ホール
〒710-0054 岡山県倉敷市本町17-1
Tel 086-425-1515 Fax 086-427-5561
【分科会】倉敷市民会館 倉敷アイビースクエア 倉敷市芸文館
- 5 大会主題

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進
～夢や知を育み 持続可能な社会の創造者となる 子どもの育成に向けた学校経営の推進～
- 6 記念講演 演 題 「小学校と手をつなぐ ～大原芸術財団の場合～」
講 師 公益財団法人大原芸術財団 代表理事 大原 あかね 氏
- 7 参 加 費 6、000円(弁当代を含む)

8 日 程

11月20日（木）	14：30～17：00	理事会・研修会
11月21日（金）	9：00～ 9：50	受付
	9：50～10：30	開会式
	10：40～11：00	全体会（趣旨説明、次期開催県挨拶）
	11：00～12：20	記念講演
	12：20～13：30	昼食・休憩・移動（分科会打合せ会）
	13：30～16：30	分科会

※ 中国理事会・研修会 11月20日（木）14：30～ ホテル グラン・ココエ倉敷

※ 分科会打合せ会 11月21日（金）12：40～ 分科会各会場

9 分科会会場・各県の参加割当

☆印→分科会提案県

施設	研究領域		会場	分科会		広島県	鳥取県	島根県	山口県	岡山県	合計
1	Ⅰ	学校経営	A	①	経営ビジョン	1 3	3	☆7	7	☆2 0	5 0
				②	組織・運営						
			B	③	評価・改善	1 3	3	5	☆9	☆4 0	7 0
	2	Ⅱ	教育課程	C	④	知性・創造性	☆1 4	3	5	8	☆3 0
D				⑤	豊かな人間性	1 3	☆5	5	8	☆4 2	7 3
				⑥	健やかな体						
Ⅲ		指導育成	E	⑦	研究・研修	☆1 4	3	5	8	☆4 0	7 0
			F	⑧	リーダー育成	1 3	☆6	5	8	☆4 2	7 4
Ⅳ		危機管理	G	⑨	学校安全	☆1 4	3	6	8	☆4 2	7 3
			H	⑩	危機対応	1 3	3	5	☆9	☆4 4	7 4
				Ⅴ	教育課題	I	⑪	社会形成能力	1 3	3	☆6
J		⑫	自立と共生			1 2	3	5	7	☆4 3 ☆	7 0
		⑬	社会との連携・協働								
合計（開催県以外は 30% 計算）						1 3 2	3 5	5 4	8 1	3 6 2	6 6 4
各県小学校数（R 6 年度）						4 4 1	1 1 8	1 8 0	2 7 1	3 6 2	1 3 7 2

10 分科会会場

<施設1> 倉敷市民会館

会場A（第4会議室）

会場B（大会議室）

会場C（展示室）

<施設2> 倉敷アイビースクエア

会場D（エメラルドホールA）

会場E（アイボリー）

会場F（エメラルドホールB）

会場G（エメラルドホールC）

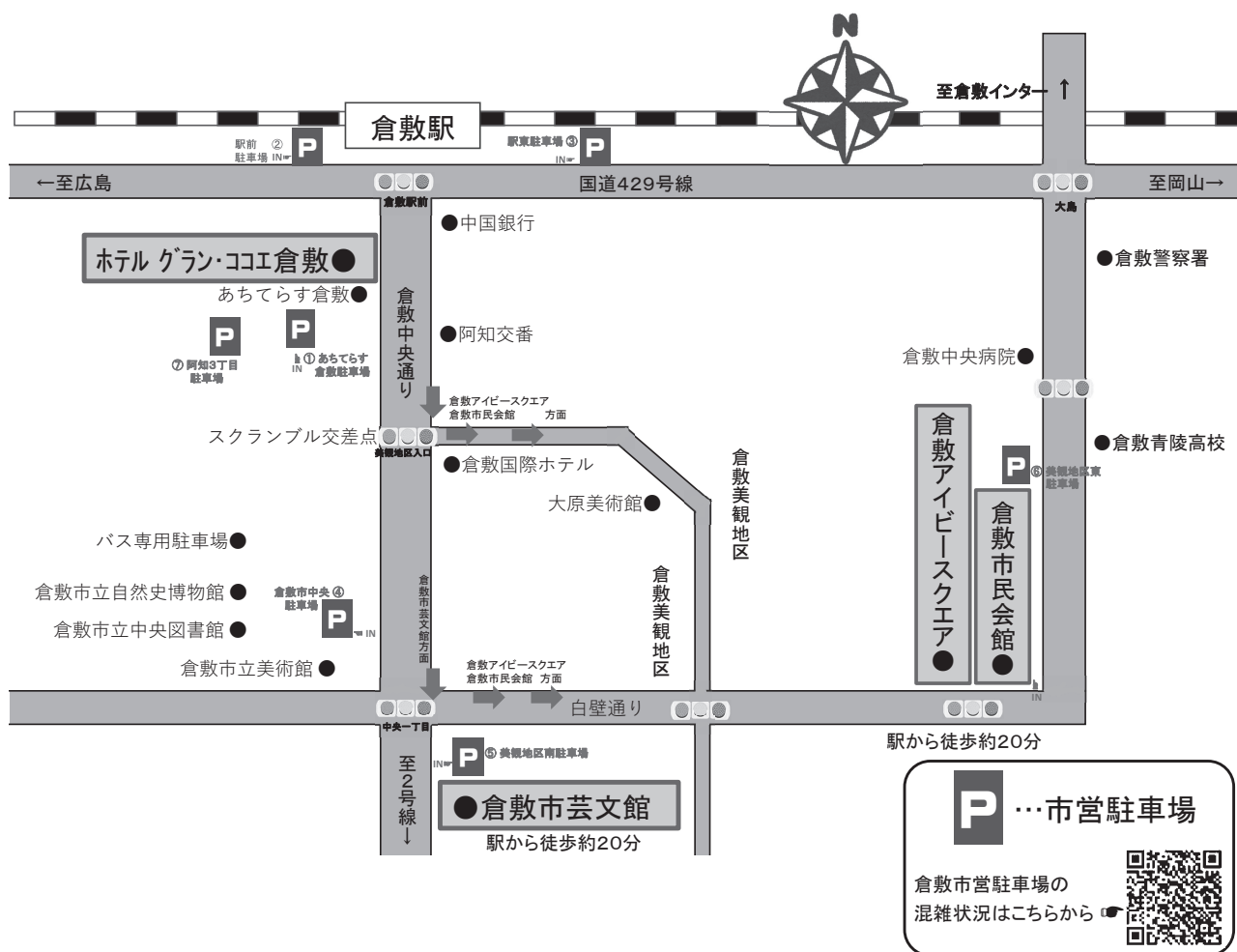
会場H（オパール）

<施設3> 倉敷市芸文館

会場I（202会議室）

会場J（アイシアター）

1 1 岡山大会 会場のご案内



<大会会場>

- ① 倉敷市会館 (全体会・分科会)
〒710-0054 倉敷市本町17-1
- ② 倉敷アイビースクエア (分科会)
〒710-0054 倉敷市本町7-2
- ③ 倉敷市芸文館 (分科会)
〒710-0046 倉敷市中央1-18-1

- ※ J R 倉敷駅南口から徒歩約20分
TEL 086-425-1515
- ※ J R 倉敷駅南口から徒歩約15分
TEL 086-422-0011
- ※ J R 倉敷駅南口から徒歩約20分
TEL 086-434-0400

<理事会会場>

- ④ ホテル グラン・ココエ倉敷
〒710-0055 倉敷市阿知3丁目3-9

- ※ J R 倉敷駅南口から徒歩約3分
TEL 086-436-7393

1 2 大会主題・副主題及び趣旨

大会主題	自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進
大会副主題	～夢や知を育み 持続可能な社会の創造者となる 子どもの育成に向けた学校経営の推進～

【趣 旨】

岡山県小学校長会をはじめ、中国地区小学校長会では、全国連合小学校長会が掲げた研究主題「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を受けて、その実現を目指し、研究を着実に進めてきた。

まず、「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る」ためには、一人一人の子どもが高い志をもち、多様な他者と尊重し合い、互いに協働しながら、持続可能な社会の創造者となる必要がある。目まぐるしく変化する世界情勢にあって人々は、それらに対応するべく、生活の有り様そのものを大きく変化させてきた。そして現在、情報化やグローバル化が加速度的に進展する中で、社会環境の変化や価値観の多様化が進み、様々な分野で前例のない変化に直面している。日進月歩で進む技術革新、とりわけ人工知能（AI）は日に日に存在感を増し、我々の生活に深く浸透しつつある。未来を生きる子どもたちは、人工知能（AI）をはじめとしたテクノロジーに対して正しい認識をもち、その上で適切に活用することが求められている。また、世界規模の環境問題や紛争、感染症の問題など、今後、世界中の人々が力を結集して、大きな課題を解決しなければならないであろうことは容易に予測できる。しかし、あまりにも大きな社会変化の中では、未来を展望し、世界規模の課題を解決することは非常に困難である。一人一人がそれぞれのウェルビーイングを求め、協働していくことで豊かな社会を築き上げることが重要である。

今、目の前にいる子どもたちは、明るく豊かな社会を築くための未来の力であり、希望である。岡山県では、子どもたちの学びを進めるにあたり、学びに積極的・主体的に取り組んでいけるよう、子どもたちの夢を育み、それに挑戦していく経験を通して、意欲や自信などの非認知能力「自分を高める力」を育てる「夢育」を、学校教育や社会教育、家庭教育など様々な学びの機会を通じて推進している。私たち大人は、子ども一人一人が未来に向けて豊かな「夢」をもち、その「夢」をエネルギーとして、仲間と共に心豊かにたくましく生きてほしいと願っている。学校教育においては、いろいろな体験を通して社会に対応する実践力等を育むと同時に、豊かな人間性を含んだ総合的な「知」を身につけることができるようにしていくことが大切である。

更に、変化に富み、多様な価値観にあふれる社会の中で、自分を見失うことなく生き抜くために、子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現させる「令和の日本型学校教育」の構築に向け、広い視野をもち、新たな教育の在り方を探りながら舵取を行う必要がある。私たち校長には、新たな教育の実現に向け、明確なビジョンをもち学校を経営する力が必要とされている。そして、学校全ての職員や家庭や地域がそれぞれの役割を明確にし、連携しながら教育活動に取り組んでいく「協働のチームづくり」も求められている。

以上のことから、本大会では副主題に「夢や知を育み 持続可能な社会の創造者となる子どもの育成に向けた学校経営の推進」を掲げ、校長として果たすべき役割と指導性について明らかにすることとした。

【分 科 会】

- (1) 経営ビジョン (2) 組織・運営 (3) 評価・改善 (4) 知性・創造性

- (5) 豊かな人間性 (6) 健やかな体 (7) 研究・研修 (8) リーダー育成
 (9) 学校安全 (10) 危機対応 (11) 社会形成能力 (12) 自立と共生
 (13) 社会との連携・協働

13 分科会領域・研究課題・趣 旨

＜研究領域 I 学校経営＞

第1分科会 経営ビジョン

【研究課題】 創意と活力に満ちた学校経営ビジョンの策定

【趣 旨】

急激な技術革新によりSociety5.0時代が到来し、人工知能（AI）は、日に日に存在感を増している。これまでに経験したことのない大きな社会変化の中で、多様な価値観が生まれ、今まで常識とされていたことすら不確かな状況になってきている。このような前例のない急激な変化や先行きの予測困難な状況にあっても、様々な困難に立ち向かい、自分らしく生きていくための力を身に付けておく必要がある。これから出会う様々な出来事に柔軟に向かい合い対応する力を養う学校教育の役割は、益々重要になっている。

学校には、子どもたちが一人一人のウェルビーイングの実現を目指して、人々と協働しながら様々な問題に気付き、解決に向けて取り組み、進む力を養うことが求められており、未来を生き抜く子どもたちには、持続可能な社会の創り手となることが求められている。

校長は、子どもたちが自分らしく未来をたくましく生き抜いていくために必要な資質・能力を身に付け、「夢」をもって進んでいくことができるように、創意ある学校経営ビジョンを示しながら、活力ある学校経営を行っていかねばならない。そのためには、従来の学校経営ビジョンを見直し、急激に変化する社会の中で今後必要になるであろう資質・能力を明確にしたうえで、現在の自校の実態や家庭や地域と連携して見えてくる課題を明らかにし、新たな学校経営ビジョンを策定していく必要がある。そして校長には、いかにして学校経営ビジョンや重点目標を全教職員と共有し、組織力を高めていくかが問われている。

本分科会では、これからの時代を見据え、校長がリーダーシップを発揮しながら、創意と活力に満ちた学校経営ビジョンを策定していくための具体的方策と成果、並びに校長として果たすべき役割と指導性について明らかにする。

第2分科会 組織・運営

【研究課題】 学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと学校運営

【趣 旨】

Society5.0の時代を生き抜く子どもたちには、変化するスピードが益々速くなってきている社会の中で、固定観念にとらわれず、変化を柔軟に受け止めながらも、自分らしさを失うことなく、一人一人のウェルビーイングを求めていくための、様々な資質・能力を身に付けることが必要である。これからの学校においては、これらの力を確かに身に付け、高めるための組織を形成しなければならない。そして、形成した組織を活かし、一人一人の子どもが、自分のよさや可能性を自覚するとともに、社会の中で、多様な人々と協働しながら様々な課題を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、グローバルで持続可能な社会の創造者になることができるような学校経営を進めていくことが求められる。

学校は、これから変化し続ける社会と対峙することで現れる学校教育課題を、職員が自らの課題として捉え、全教職員が一丸となって課題解決に向けて主体的に取り組めるようにしていくことが大切である。そして、一人一人の職員の学校経営参画意識を高めることや、これまでの慣習にとら

われず、自らの働き方を見直し、未来の担い手を育成すべく授業改善に取り組み続けるとともに、人間性や創造性を高めるための持続可能で効果的な教育活動ができる組織をつくる必要がある。

校長は、明確な学校経営ビジョンや、その根拠となる思いを、教職員に直接効果的に伝えることで方向性を共有したり、日々十分なコミュニケーションを図ることで信頼関係を築いたりすることが欠かせない。変化し続ける社会に柔軟に対応するための意識改革を図り、教職員全体が不易流行を念頭に置きながら、学び合うことのできる学校風土をつくること、社会変化の動向を掴み、家庭や地域と連携すること、学校組織の実態や課題を的確に把握して具体的な手立てを講じることも重要である。

本分科会では、校長が示す学校経営ビジョンの実現を図るための活力ある組織づくり及び、組織を効果的に運営していくための具体的方策と成果、並びに校長として果たすべき役割と指導性について明らかにする。

第3分科会 評価・改善

【研究課題】 学校教育の充実を図るための評価・改善

【趣 旨】

急激な少子高齢化、情報化やグローバル化、日々進化する人工知能（AI）の発展などによる社会的変化が進み、予測困難な時代を迎えている。これからの未来を切り拓き生きる子どもたちは、柔軟に社会変化を受け止めながら多様な人々と協働し、「夢」をもち、持続可能な社会の創造者となる力を身に付けていくことが求められる。

学校は、急激な社会の変化の中で未来を見据えた教育における課題を踏まえ、子どもたち一人一人がウェルビーイングを求め、豊かな社会を創り出していくために必要な資質・能力を育む教育を推進していかなくてはならない。そして、急激に変化する社会においては、常に真摯に評価と改善を繰り返し、積み重ねながら教育活動の充実を図っていく必要がある。

そのため、校長は、未来を見据え、掲げた学校教育目標の実現化に向けて、学校や学校を取り巻く地域の特色を生かしながら、変化し続ける社会において教育活動の充実に努め、学校教育目標の達成状況や達成に向けた取組について繰り返し評価し、社会の変化・要請に沿った学校づくりのために柔軟に改善を進めていくことが求められる。こうした社会に開かれた教育課程を実施することは、今後一層大切になってくる。保護者や地域住民の学校経営への参画を促し、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を担い連携する組織的な学校体制を確立していくうえでも、評価は重要である。人事評価においては、そのねらいである教職員一人一人のモチベーションを上げることを念頭に、教職員の適切な評価を重ね、教職員一人一人の強みを生かし、個々に応じた能力開発や資質能力の向上を促していく必要がある。学校教育のさらなる充実を図るために、個々の人事評価を学校の組織としての成長や発展につながるようにしていくことが重要である。

本分科会では、子どもたちが持続可能な社会の創造者となる力を育むことができるように、学校教育の充実を図るための評価・改善の具体的方策と成果、並びに校長として果たすべき役割と指導性について明らかにする。

<研究領域 II 教育課程>

第4分科会 知性・創造性

【研究課題】 知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進

【趣 旨】

これからの社会は、今までに経験したことがないほどのスピードで変化し、これまで当たり前だった価値観も変化することが予想される。少子高齢化による就業人口の減少やそれに伴うグローバル

化が一層進み、人工知能（AI）など技術革新が加速度的に進化すると考えられる。未来を切り開く子どもたちには、予測困難な社会の変化の中にあっても、一人一人の個性や感性を豊かに働かせながら、試行錯誤したり、多様な他者と協働したりしながら、これまでなかった新たな価値を生み出し、持続可能な社会の創造者となる力を身に付けていくことが求められる。

学校には、日々変化する社会に応じて必要な教育の内容等を組織的かつ計画的に行い、子どもたちが主体的に社会と関わり、未来に「夢」をもって豊かに生きていくために、変化を柔軟に受け入れながらも、自分らしくたくましく生き抜く確かな力を身に付けるための学校教育を構築することが求められている。そして、子どもたちが自らの可能性を見いだして他者と協働しながら課題解決を図り、皆がそれぞれのウェルビーイングを求めて、より豊かな社会を創り出していくことができるように、知性と創造性の育成を行っていくことが大切である。

校長は、社会情勢の変化を敏感に感じ取り、子どもたちにとって必要となる資質・能力を見極めていくことが大切である。そして、リーダーシップを発揮し、教職員の力を統合して学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの充実を図っていく必要がある。また、子どもたちの知性と創造性を育むために、家庭や地域とも連携・協働しながらカリキュラム・マネジメントを実施し、学習効果の最大化を図っていくことが大切である。そして、より確かな教育効果を求めるためにPDCAサイクルを活用して、評価・改善を行っていく必要がある。

本分科会では、豊かな学校教育を通して社会変化にも柔軟に対応し、「夢」をもち、自分らしく未来を切り開く子どもの育成を図るために、知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進について、具体的方策と成果、並びに校長として果たすべき役割と指導性について明らかにする。

第5分科会 豊かな人間性

【研究課題】 豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントの推進

【趣 旨】

子どもたちがこれから生きる社会は、グローバル化、情報化等により変化が激しく、人工知能（AI）の飛躍的な進化等も相まって、予測困難な未来であると言われている。また、SNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）の急速な普及に伴って誹謗中傷等が横行し、新たな人権問題も引き起こしている。このような時代を生き抜くためには、人権に関する基本的な知識を身に付け、多様な他者と互いに尊重し協働する力を培うと共に、自分自身の生き方を模索し、自己を確立しながらよりよい社会の創造者となる力を身に付けなければならない。

このような時代にあって学校教育には、社会や世界に向き合いながら関わり、自らの人生を切り拓いていくために必要な資質・能力とは何かを明確化した、社会に開かれた教育課程の編成が求められる。カリキュラム・マネジメントとは、社会の変化に応じて教育課程を最適化する営みであることを常に意識しながら、道徳教育や人権教育等を中心とした教育活動の実践を通して、豊かな人間性の育成に努めていかなければならない。

そのために校長は、学校組織及び運営の見直しを常に図っていく必要がある。そして、教職員一人一人が、日々の授業や学級づくり、教育環境整備等の教育活動について、教育課程全体の中での位置づけを意識しながら取り組むことで、教育効果の最大化を目指すことができるように働きかける必要がある。教育課程編成は、豊かな人間性を育成していく上で重要な視点であると考えられる。

本分科会では、豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントを推進する具体的方策と成果、並びに校長として果たすべき役割と指導性について明らかにする。

第6分科会 健やかな体

【研究課題】 健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進

【趣 旨】

子どもたちを取り巻く生活環境は、急激な情報化社会への移行をはじめとする科学技術の日進月歩の進歩・発展により大きく変化し、子どもたちの健やかな育成に大きな影響を及ぼしている。生活環境の大きな変化は、体力やコミュニケーション能力の低下へ少なからず影響していると考えられる。また、SNSや通信型ゲームなど、インターネットを介したバーチャル世界を居場所とする生活が広がり、これから益々、体を動かす機会は奪われていくことが考えられる。運動する機会の減少は、体力・運動能力の低下にとどまらず、人間関係の希薄化をもたらすなど、子どもたちの健やかな成長に大きな影を落している。

変化に富み、予測不可能なこれからの社会を切り拓く子どもたちに、健やかな心身の育成を図ることは極めて重要である。健やかな体を育むことは、健康的な体を維持することだけではなく、やる気や自信、積極的に人・物・事に関わる意欲といった、非認知能力を高める点においても重要な要素である。そして、自らの「夢」を育み、たくましく未来を切り拓き、他者と協働しながら豊かな社会を築き上げるためには健やかな心身が必要である。

学校教育においては、子どもたちの健やかな心と体を育み、一人一人がそれぞれのウェルビーイングを求めてたくましく生きていくために、生涯にわたって主体的かつ積極的にスポーツに親しむ習慣や資質・能力を、意図的・計画的に発達段階を踏まえて育成する必要がある。また、健やかな心身を育む取組は、学校生活におけるすべての機会にとどまらず、家庭や地域との連携を強化し、一体となって行っていく必要がある。

本分科会では、学校が核となって家庭や地域と連携・協働しながら、子どもたちが生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現し、健康で安全な生活を営んでいく実践力を育むカリキュラム・マネジメントの推進について、その具体的方策と成果、並びに校長として果たすべき役割と指導性について明らかにする。

＜研究領域 Ⅲ 指導・育成＞

第7分科会 研究・研修

【研究課題】 学校の教育力を向上させる研究・研修の推進

【趣 旨】

グローバル化や技術革新が急速に進展し、社会環境の急激な変化や価値観の多様化も一段と進み、予測困難な時代になると言われている。少子高齢化や核家族化、インターネットや携帯電話の普及とともに感染症対策なども関係していると思われるコミュニケーション力の低下、子どもの貧困と教育格差など問題は山積みである。また、学校教育に対する家庭や地域からの期待は高く、求められる役割はますます複雑化・多様化してきている。

学校においては、質の高い教育を行うためにも、教職員の専門性を高めていく必要がある。増えている若手教職員の育成も含め、学習指導をはじめとして、学級経営や生徒指導、保護者への対応力や危機管理能力など、幅広い課題から必要なものを見定めて研究・研修を行い、学校全体の教育力を向上させていくことが求められている。

校長は、働き方改革の視点をもちながらも、教職員一人一人の特性や力量を見極め、個に応じた課題とその具体的な解決への展望をもたせることが大切である。そして、教職員が意欲をもって、求められる資質・能力を高めていくことのできる研究・研修を積極的に推進していく必要がある。

本分科会では、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、学校の教育力を向上させる研究・研修を推進するための具体的方策と成果、並びに校長として果たすべき役割と指導性について明らかにする。

第8分科会 リーダー育成

【研究課題】 これからの学校組織を担うリーダーの育成

【趣 旨】

グローバル化・高度情報化や技術革新が急速に進展している現代社会は、大きな変革の波の中にある。家庭や地域の学校教育に対する関心も高く、教育課題も複雑化・多様化している。このような社会の中で、学校経営においては、教職員一人一人の資質・能力を高め、学校組織全体の教育力を向上させていくことが最重要課題となってきた。

教職員一人一人の力量を高めていくために、「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びとして研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励が示された。蓄積されてきた自らの学びを客観視した上で、更に伸ばしていきたい分野・領域や新たに能力開発したい分野・領域を見いだすことができ、主体的・自立的な目標設定やこれに基づくキャリア形成につながることを期待されている。学校管理職には、教職員が自らの研修ニーズと、強みや弱み、今伸ばすべき力や学校で果たすべき役割などをふまえながら、主体的に必要な学びを行っていくよう教職員と対話を繰り返していくことが求められている。

学校における組織力の向上には、中核的な役割を果たすミドルリーダーの存在が不可欠である。若手教員の増加や世代交代が進む現在、ミドルリーダーの育成は喫緊の課題となっている。校長のリーダーシップのもと、学校組織として、意図的・継続的に研修機会を設け、学校運営への参画意識と創造的に変化を生み出し、学校改善を推進する力を高める必要がある。ミドルリーダーには、OJTの中心として、若手教員を育成し、組織運営の活性化を図る役割も求められている。そのような役割をこなしていくことで、教育活動を見渡せる広い識見と実践的指導力、教職員間や管理職をつなぐ調整力等が培われていく。

本分科会では、実践力と応用力を身に付けたミドルリーダーや、社会の変化に主体的に関わり自ら学び続ける管理職人材など、これからの学校組織を担うリーダーを育成するための具体的方策と成果、並びに校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

＜研究領域 IV 危機管理＞

第9分科会 学校安全

【研究課題】 命を守る安全教育・防災教育の推進

【趣 旨】

これまでに、阪神・淡路大震災、新潟中越地震、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨災害と、「特定非常災害」に指定される甚大な災害を経験してきたが、線状降水帯の発生による局地的な集中豪雨による被害が毎年繰り返され、更に南海トラフ地震発生も想定しなければならず、今後も大規模災害への危惧は高まるばかりである。また、不審者による無差別な犯罪、多発する交通事故、更には、子どもを守るべき保護者による児童虐待やヤングケアラー等、子どもたちが被害者となる事案が後を絶たない。加えて、無料通信アプリやオンラインゲーム等の急速な普及に伴う、利用上のトラブルやネット依存の問題等も発生件数が増加している。このように、子どもたちを取り巻く危機は、多様化し深刻になっている。

こうした現状の中、自然環境や社会状況の変化を的確に捉え、子どもたちに起こりうる様々な危機を予測し、安全で安心できる教育環境を担保することは、学校の責務である。その上で、子どもたちが安全・防災に関する知識を正しく身に付け、危機回避能力を高めていくことを目指さなければならない。不測の事態に直面したとき、自ら判断し行動できる子どもたちの育成が求められている。

そのために、校長は、教職員の学校安全に関する資質・能力を高め、学校の教育活動全体を通して計画的に組織的に安全教育・防災教育を推進しなければならない。更に、家庭・地域・関係機関

との連携を強化することで、安全で安心な社会の担い手となる子どもの育成を、より確かなものにしていく必要がある。

本分科会では、命を守る安全教育・防災教育を推進し、子どもたちの安全と安心を確保するための具体的な方策と成果、並びに校長として果たすべき役割と指導性について明らかにする。

第10分科会 危機対応

【研究課題】 様々な危機への対応と未然防止の体制づくり

【趣 旨】

社会の急激な変化に伴い、学校や子どもを取り巻く生活・安全上の課題も多様化している。いじめや不登校・暴力行為等の問題、不審者や交通事故等の問題、食物アレルギーや感染症等の課題、携帯電話やゲーム機によるネットトラブル、児童虐待やヤングケアラー等、学校が配慮・対応しなければならない事案は後を絶たない。

学校は、子どもたちの健やかな成長を願い、一人一人が「夢」をもって自己実現に向けて学ぶことができる場である必要がある。学校生活を送る上で、安心して過ごすことができるように、また、安全に学習や活動に取り組めるように環境を整えておかなくてはならない。そのために、教職員及び子どもたちの危機対応力を高めるとともに、何かあった時の危機管理体制を確立しておくことが必要である。

校長は、研修等を通して教職員の危機管理意識や危機対応力を高めたり、危機管理マニュアルを見直して危機管理体制の充実を図ったりする必要がある。また、保護者や地域、関係機関等とも連携して、子どもたちの安全・安心を確保していく体制づくりを推進していくことも重要である。

本分科会では、生命と安全を守るための様々な危機への対応の在り方と、危機の発生を未然に防止するための具体的な方策と成果、並びに校長として果たすべき役割と指導性について明らかにする。

<研究領域 V 教育課題>

第11分科会 社会形成能力

【研究課題】 社会形成能力を育む教育活動の推進

【趣 旨】

感染症対策のため、学校でもマスクを着用して距離をとるなど、お互いに意見のやり取りを行うのも難しい期間があった。社会でも核家族化や少子高齢化、デジタル化の急速な進行などで、直接的な人と人との関わりが希薄化してきており、社会性やコミュニケーション能力など、人との関わりの中で培われていくものを育てる機会が減少している。

このような中、学校にはこれからの社会を生きていく子どもたちに、お互いのよさや可能性を認めながら、よりよい社会を形成しようとする能力や態度を身に付けさせることが求められている。また、家庭や地域とも連携をとりながら、これからの時代に求められる資質・能力を育てていくことが大切になってくる。

校長は、子どもたちが身近な社会の課題に気づき、その解決のために子どもたち自身が考えたり、進んで取り組んだりできるような教育活動を展開する必要がある。また、キャリア教育の視点を取り入れた教育活動を効果的に行っていくことで、子どもたちは規範意識といった社会的・職業的自立に向けた必要な力やコミュニケーション能力を育み、将来への「夢」をもち、よりよい社会を創造する人材として活躍することができるようになると思う。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、よりよい社会の形成者として必要な社会形成能力を育む教育を推進するための具体的な方策と成果、並びに校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

第12分科会 自立と共生

【研究課題】 自立と共生の実現に向けた教育活動の推進

【趣 旨】

現在は、性別や年齢、国籍や文化の違い、障害の有無などにかかわらず、さまざまな人々が分け隔てなく暮らしていくことのできる「共生社会」の実現が求められている。「共生社会」とは、互いの人権を尊重し合い、誰もが積極的に参加・貢献していくことができる社会である。子どもたちには、自分らしさを大切にしながら他者の多様性を尊重し、様々な分野での「共生社会」の創り手となっていくことが求められている。

学校においては、お互いの人格と個性を認め合い、支え合う教育を行う中で、子どもたちの自尊感情を高め、自立に向かって成長できるようにしていく必要がある。また、インクルーシブ教育の視点を生かしながら、多様性を尊重し、他者への共感や思いやりの心を醸成する教育を推進していくことが大切である。そして、協働的な学びの中で、子どもたち一人一人が、自らウェルビーイングを求めていく力を育成していくためには、個々のもっている困難さを克服・改善していく「個へのアプローチ」と共に、集団が一人一人の困難さを理解して受け入れたり、手助けをしたりすることで困難さを軽減させていく「集団へのアプローチ」が重要になってくる。

校長は、学校全体でインクルーシブ教育の視点を大切にしながら、子どもたちの自立と共生の実現の基となる資質・能力を育む教育活動を行っていくことができるようにしていく必要がある。そのための校内体制の整備や地域や関係諸機関との連携も充実させていかななくてはならない。

本分科会では、子どもたち一人一人が自立して、多様な他者と共生し協働していく力を育む教育を推進するための具体的方策と成果、並びに校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

第13分科会 社会との連携・協働

【研究課題】 家庭や地域等との連携・協働と学校間連携の推進

【趣 旨】

近年、少子高齢化・情報化の進展等、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、子どもの学習意欲の低下や基本的な生活習慣の乱れ、体験・経験不足、コミュニケーション能力の低下等、学校だけでは対応が困難な多くの課題が指摘されている。子どもたちが夢を育み、未来社会を切り拓くための資質・能力を育成するためには、学校・家庭・地域が一体となって取り組む組織的な体制を創っていくことが必要不可欠とされている。つまり、学校・家庭・地域が互いの結びつきを強め、それぞれの役割や責任を果たしながら、一体となって、連携・協働して子どもたちの夢を育んでいくことができる推進体制整備が必要となっているのである。

また、依然として幼稚園・保育園・認定こども園から小学校へ、小学校から中学校への架け橋期における教育に関する課題も存在している。それぞれが相互理解を図ったり、カリキュラムを工夫・改善したり、園児、児童、生徒が交流を行ったりして、幼・保・こ・小・中学校間の連携をしっかりと行い、子どもたちがスムーズに学校に適応できるようにしていくことが大切である。

校長は、社会に開かれた教育課程を編成し、家庭や地域の人々と共に子どもを育てていくという視点に立ち、地域と共にある学校づくりや学校間の連携、そして、それらに伴う教育環境の整備等を推進していく必要がある。

本分科会では、子ども一人一人の未来を見据え、家庭や地域等との連携・協働と、学校間連携を推進していく具体的方策と成果、並びに校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

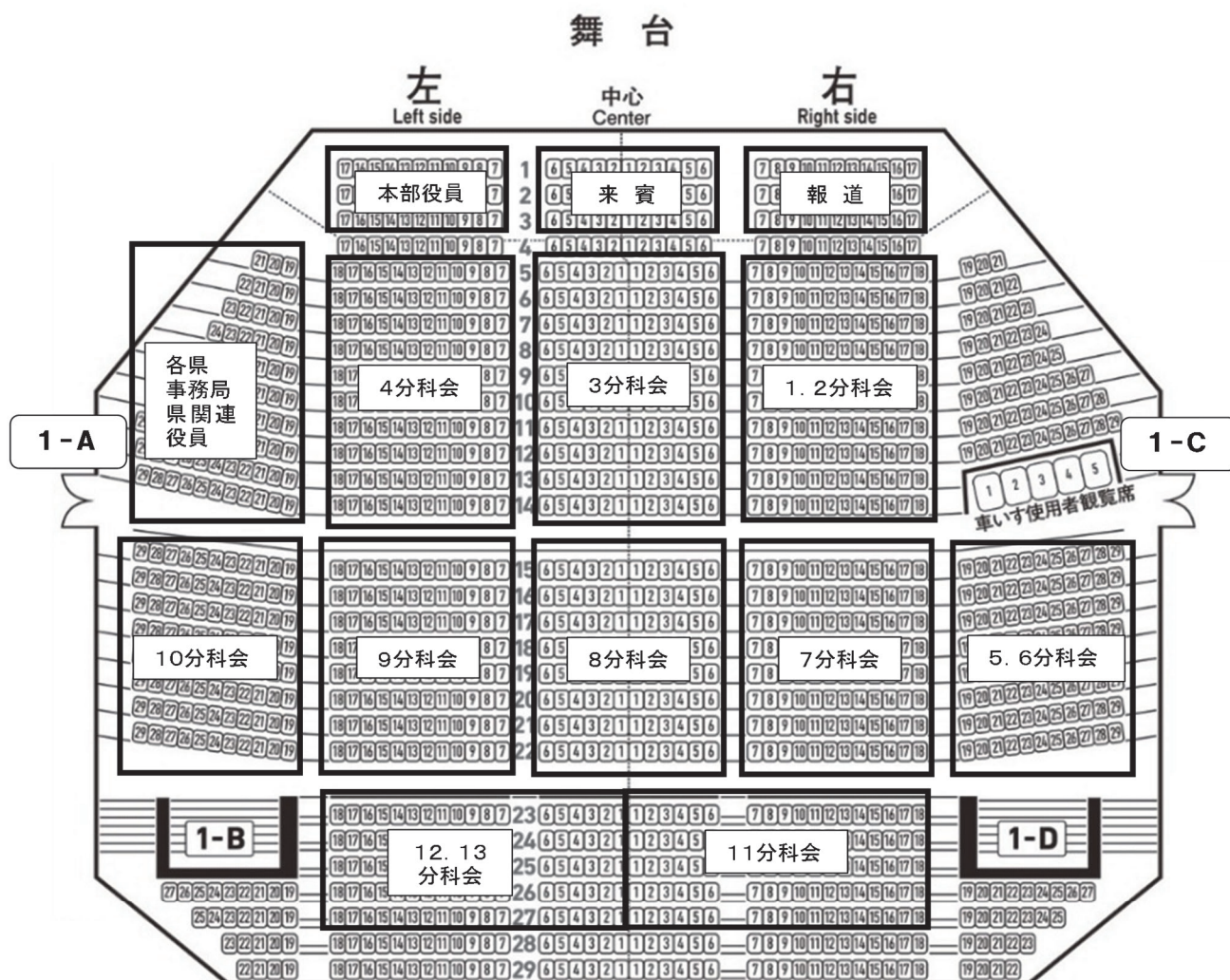
1 4 分科会関係者一覧

施設	会 場		研究領域		分科会番号・領 域・研 究 課 題	
1	A	倉敷市民会館第4会議室	I	学校経営	①	〈経営ビジョン〉 創意と活力に満ちた学校経営ビジョンの策定
					②	〈組織・運営〉 学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと学校運営
	B	倉敷市民会館大会議室			③	〈評価・改善〉 学校教育の充実を図るための評価・改善
2	C	倉敷市民会館展示室	II	教育課程	④	〈知性・創造性〉 知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進
	D	倉敷アイビースクエア エメラルドホールA			⑤	〈豊かな人間性〉 豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントの推進
					⑥	〈健やかな体〉 健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進
	E	倉敷アイビースクエア アイボリー	III	指導・育成	⑦	〈研究・研修〉 学校の教育力を向上させる研究・研修の推進
	F	倉敷アイビースクエア エメラルドホールB			⑧	〈リーダー育成〉 これからの学校組織を担うリーダーの育成
	G	倉敷アイビースクエア エメラルドホールC	IV	危機管理	⑨	〈学校安全〉 命を守る安全教育・防災教育の推進
	H	倉敷アイビースクエア オパール			⑩	〈危機対応〉 様々な危機への対応と未然防止の体制づくり
3	I	倉敷市芸文館 202 会議室	V	教育課題	⑪	〈社会形成能力〉 社会形成能力を育む教育活動の推進
	J	倉敷市芸文館アイシアター			⑫	〈自立と共生〉 自立と共生の実現に向けた教育活動の推進
					⑬	〈社会との連携・協働〉 家庭や地域等との連携・協働と学校間連携の推進

発 表 主 題	提 案 者	司 会 者
魅力あふれる学校経営ビジョンの策定 ～学校と家庭、地域が協働した創意あるビジョンづくり～	岡山・浅口市・金光小 小野 力矢	岡山・浅口市・六条院小 藤本真砂子
学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと学校運営～職員の参画意識を高める学校運営の工夫～	島根・浜田市・長浜小 花田 健司	島根・浜田市・周布小 大達 高弘
学校改善への意識と組織力を高める学校評価と教職員評価の充実～小中一貫教育校における取組から～	山口・萩市・多磨小 眞野 直洋	山口・萩市・椿東小 山本 豊三
変化し続ける社会に対応した教育活動の充実～社会の変化・要請に沿った学校評価の改善と学校運営協議会の活性化を目指して～	岡山・井原市・井原小 三宅 淳	岡山・井原市・青野小 佐藤 朗弘
夢の実現に向けて主体的に行動する児童の育成 ～中学校区での学校間連携と自校での取組を通して～	広島・三次市・川地小 原田 和明	広島・三次市・栗屋小 高槻 雄志
課題を自分で見つけ、協働して解決していく児童の育成 ～主体的に学習に取り組むための校長の役割～	岡山・津山市・西小 小椋 行治	岡山・津山市・一宮小 野村 恵美
豊かな人間性の育成に向けた地域学習の充実 ～学校運営協議会・地域学校協働本部との連携・協働の推進～	岡山・瀬戸内市・美和小 水玉 匠紀	岡山・瀬戸内市・牛窓西小 小崎 典子
共通指標を根拠とした健やかな体を持つ児童の育成	鳥取・伯耆町・岸本小 河本 洋	鳥取・南部町・会見第二小 岡田 勝彦
「オール世羅」でつなぐ幼保・小・中・高連携の取組	広島・世羅町・甲山小 寺田 知巳	広島・世羅町・せらひがし小 平尾 浩一
学校力・教師力向上をねらった研究・研修 ～架け橋プログラムを軸に展開するための校長の役割～	岡山・赤磐市・桜が丘小 永井伸一郎	岡山・赤磐市・山陽東小 東 信雄
学校の枠を越えた次世代の学校リーダー育成	鳥取・八頭町・郡家西小 葉狩 学	鳥取・八頭町・郡家東小 盛田 里美
これからの学校を担うリーダーの育成 ～職員が成長するシステムのあり方～	岡山・鏡野町・鶴喜小 谷口 明裕	岡山・鏡野町・香々美小 近藤 保彦
「自分の命は自分で守る」力の育成 ～自分の笑顔、家族の笑顔、地域の笑顔を守る～	広島・呉市・昭和北小 香川 隆太	広島・呉市・吉浦小 吉原 知美
「自分たちの命を守る」防災意識の向上と安全・防災教育の推進～児童・教職員・中学校区とともに～	岡山・美作市・江見小 岸本 徹	岡山・美作市・英田小 櫻井 敬明
学校危機をいかに防ぐか ～教職員の危機意識の向上と安全管理体制の在り方～	山口・周防大島町・東和小 山根 基秀	山口・周防大島町・三蒲小 富樫 優子
自他の安全について自ら考え、進んで行動できる態度や能力を育てる 安全教育～セーフティプロモーションスクール認証の取組を通して～	岡山・矢掛町・中川小 村木 美晴	岡山・矢掛町・矢掛小 徳山 聡子
持続可能な「ライフキャリア教育」としていくために ～校長会・校長の役割を再考する～	島根・益田市・中西小 山根 崇志	島根・益田市・安田小 中尾 瑞紀
社会形成能力を育む地域資源を生かした取組の推進と校長の役割	山口・長門市・明倫小 山村 義弘	山口・長門市・向陽小 松本 清和
インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育の推進	岡山・岡山市・西大寺南小 祇園 元子	岡山・岡山市・三敷小 鳥越有実子
学校・家庭・地域社会の有機的なつながりによる自立する子どもの育成をめざして～地域の力を生かした学校運営と教育活動～	岡山・岡山市・豊小 橋本 隆志	岡山・岡山市・桃丘小 安井 澄子

15 全体会場座席図

倉敷市民会館ホール 1 階



16 大会に参加される方への連絡事項

(1) 参加申込について

- ① 参加者は、6月26日（木）までに参加申込票（又は、各地区校長会の参加申込責任者が作成した参加者名簿一覧）に参加費を添えて、各県小学校長会事務局へ申し込んでください。
- ② 参加費の返金はいたしません。後日、大会報告書をお届けします。
- ③ 参加費領収書は、大会当日に受付でお渡しする大会要項に入れておきます。
- ④ 参加についての変更は、9月5日（金）までに各県小学校長会事務局へご連絡ください。

(2) 大会当日の対応について

- ① 開会式の座席は、「県別の座席」ではなく「分科会ごとの座席」（14ページ参照）となります。昼食及び分科会会場への移動を円滑に行うためのものですので、ご協力をお願いします。
- ② 受付では出席確認を行いませんので、急な欠席の場合は、他の参加者または各県の市郡等の代表の方に、要項等の持ち帰りを依頼してください。

(3) 駐車場について

- ① 参加者用に駐車場を確保していません。できるだけ公共交通機関や貸し切りバス等を利用してご来場ください。
- ② 貸し切りバス等の駐車場の斡旋は行いませんので、ご了承ください。なお、分科会会場（倉敷アイビースクエア・倉敷市芸文館）へは、徒歩で移動できます。（5～8分）

(4) 宿泊申込について

宿泊に関しては、大会事務局での取り扱いは行いませんので、参会の皆様ご自身において宿泊の手配をしていただきますようお願いいたします。なお、理事会・研修会参加者の宿泊については、大会事務局で手配します。

17 各県小学校長会事務局へのお願い

- (1) 参加者名簿一覧は、7月15日（火）までに「岡山県小学校長会事務局」へメールにてお送りください。
- (2) 参加費は、7月25日（金）までに下記にお振込みください。

振込先	
金融機関名	中国銀行 本店営業部 チュウゴクギンコウ ホンテンエイギョウブ
口座番号	普通 3678829
口座名義	中国地区小学校長会 チュウゴクチクシヨウガッコウチョウカイ 中尾 雅文 ナカオ マサフミ

- (3) 参加者の変更は、各県小学校長会の事務局を通じて「岡山県小学校長会事務局」までご連絡ください。

18 中国地区理事・提案者・司会者・記録者・分科会運営委員等への連絡

- (1) 「提案原稿」「協議の柱」の提出は、7月31日（木）までに「岡山県小学校長会事務局」へメールにてお送りください。
- (2) 中国地区小学校長会第2回理事会・研修会を、大会前日の11月20日（木）14時30分から、「ホテル グラン・ココエ倉敷」にて開催します。詳細は近づきましたらお知らせします。
- (3) 大会当日の11月21日（金）12時40分から、各分科会打合せ会場において、分科会打合せ会を行います。参加者は、提案者、司会者、記録者、分科会運営委員です。詳細は後日、ご本人あてにご案内します。

岡山大会に関する連絡・問い合わせ先

〒700-0823 岡山県岡山市北区丸の内1-2-12
岡山県小学校長会事務局

TEL 086-222-4314

FAX 086-222-4307

Email syokocho@po.harenet.ne.jp